

岡山県感染症週報 2019年 第7週 (2月11日～2月17日)

岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

岡山県は『食中毒(ノロウイルス)注意報』発令中です

◆2019年 第7週(2/11～2/17)の感染症発生動向(届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第6週	2類感染症	結核 1名(70代 男)
	4類感染症	レジオネラ症 1名(60代 男)
	5類感染症	ウイルス性肝炎 1名(30代 女)
		急性脳炎 1名(幼児 女)
		侵襲性肺炎球菌感染症 1名(50代 女)
		梅毒 2名(20代 女 1名、50代 男 1名)
第7週	2類感染症	結核 9名(10代 男 1名、20代 男 3名・女 1名、30代 男 1名・女 1名、80代 女 2名)
	5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1名(80代 男)
		急性弛緩性麻痺 1名(幼児 男)
		急性脳炎 1名(幼児 女)
		侵襲性肺炎球菌感染症 1名(70代 男)
		梅毒 2名(20代 男 1名、30代 女 1名)

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点 84、小児科定点 54、眼科定点 12、STD 定点 17、基幹定点 5

- インフルエンザは、県全体で 1,046 名(定点あたり 23.02 → 12.45 人)の報告があり、前週から減少しました。
- 感染性胃腸炎は、県全体で 335 名(定点あたり 8.44 → 6.20 人)の報告があり、前週から減少しました。

【第8週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が 24 施設でありました(2月18日～21日)。
- 感染性胃腸炎によるとみられる学校等の臨時休業が 1 施設でありました(2月21日)。

- 風しん**は、2019年第7週までに3名の報告がありました。なお、2018年の累計報告数は29名でした。風しんは、妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群(CRS)を発症することがあり、注意が必要です。また、成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。岡山県内の発生状況など詳しくは「[今週の注目感染症](#)」をご覧ください。
- インフルエンザ**は、県全体で1,046名(定点あたり23.02→12.45人)の報告があり、第5週(1/28～2/3)以降患者数は減少していますが、依然として多くの患者が報告されています。岡山県は、「**インフルエンザ警報**」を発令中であり、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域(22.67人)、倉敷市(19.38人)、備中地域(11.50人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。県内の発生状況など詳しくは「[インフルエンザ週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[2018/2019年シーズン インフルエンザ情報「インフルエンザ警報」発令中!](#)」をご覧ください。
- 感染性胃腸炎**は、県全体で335名(定点あたり8.44→6.20人)の報告があり、前週から減少しました。地域別では、備前地域(8.40人)、美作地域(7.67人)、倉敷市(6.73人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。岡山県は、「**食中毒(ノロウイルス)注意報**」を発令中であり、食中毒予防を呼びかけています。県内の発生状況など詳しくは、「[感染性胃腸炎週報](#)」および岡山県感染症情報センターホームページ「[2018/2019年 感染性胃腸炎情報](#)」をご覧ください。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**は、県全体で109名(定点あたり2.20→2.02人)の報告があり、前週とほぼ同数でした。過去10年間の同時期と比較しても多くなっています。地域別では、備北地域(5.25人)、倉敷市(3.18人)、備前地域(1.80人)の順で定点あたり報告数が多くなっています。この感染症は、就学前から学童期にかけての小児に多く、保育園や幼稚園、学校などで集団感染することもあります。患者との濃厚接触を避け、手洗い・うがいを行うなど感染予防に努めましょう。

3月1日（金）～3月7日（木）は「子ども予防接種週間」です。

4月からの入園・入学に備えて、必要な予防接種をすませ、病気を未然に防ぎましょう。

我が国では、毎年3月1日～7日を「子ども予防接種週間」とし、予防接種への関心と予防接種率の向上を図るため、さまざまな企画や啓発活動を実施しています。

岡山県の協力医療機関では、この期間内にワクチン接種を行うとともに、ワクチン接種に関する相談にも応じています。また、協力医療機関によっては土曜日、日曜日など、通常の診療時間外の接種も行っています。

[平成30年度「子ども予防接種週間」の実施について](#)（厚生労働省ホームページ）

[岡山県内の協力医療機関一覧表](#)（岡山県医師会ホームページ）

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	▲	★★★	RSウイルス感染症	▲	★
咽頭結膜熱	▲	★★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	▶	★★★★★
感染性胃腸炎	▲	★★★	水痘	▶	★
手足口病	▶	★	伝染性紅斑	▶	★
突発性発疹	▶	★	ヘルパンギーナ	▶	
流行性耳下腺炎	▲	★	急性出血性結膜炎	▶	
流行性角結膜炎	▲	★	細菌性髄膜炎	▲	★
無菌性髄膜炎	▼		マイコプラズマ肺炎	▼	
クラミジア肺炎	▶		感染性胃腸炎(ロタウイルス)	▲	★

【記号の説明】 前週からの推移： ▲：大幅な増加 ▲：増加 ▶：ほぼ増減なし ▼：減少 ▼：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★★：少し ★★★★★：やや多い ★★★★★★：多い ★★★★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が患すると、出生児に先天性風しん症候群（CRS）を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

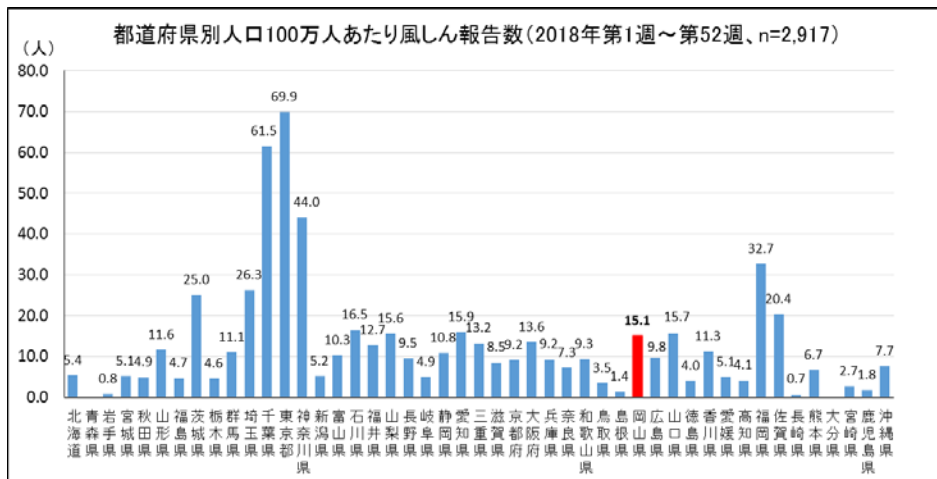
感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

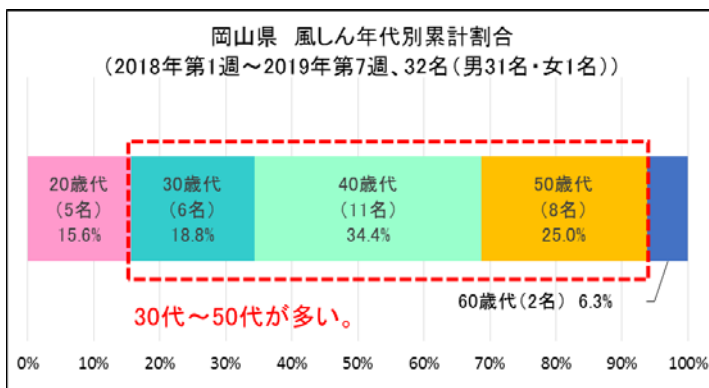
風しんは、2018年に全国的に流行しました（2018年の全国の風しん届出数：2,917名。直近3年間では年間93～163名）。中国・四国地方では、岡山県：29名、広島県：28名、山口県：22名、香川県：11名、愛媛県：7名などが報告されました。

患者は、男性が女性の4.3倍と多くを占めており、中でも抗体価が低いとされる、30代～50代の男性が中心となっていました（男性患者全体の約8割）。

2018年第52週までの人口100万人あたりの患者報告数は全国で22.9人となり、東京都が69.9人で最も多く、次いで千葉県の61.5人、神奈川県44.0人、福岡県32.7人、埼玉県26.3人と続いています。岡山県は、人口100万人あたり15.1人となりました。



岡山県では、2018年の累計で29名(男性28名、女性1名)の報告があり、年代別では40歳代が11名、50歳代が7名、30歳代が5名の順で多く報告されました。



2019年は第3週に1名(50歳代男性)、第4週に1名(20歳代男性)、第6週に1名(30歳代男性)の報告があり、2018年から始まった風しんの全国的な流行における岡山県での患者累計(2019年第7週まで)は32名となりました。

2018年には事業所における発症事例が複数ありましたが、2019年も継続している事例があります。

<参考：中国・四国地方の状況> (2019年第1週～第7週(速報値)累積報告数)

岡山県：3名、広島県：4名、山口県：6名、香川県：1名、愛媛県：1名

●先天性風しん症候群(CRS)とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群(CRS)と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。全国では、2019年第4週に、1名の先天性風しん症候群の発生報告がありました。

●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

岡山県でも、全国の状況と同様に、30歳代～50歳代の男性が患者のほとんどを占めており、大きな問題です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。

⇒コラム「風しんの予防について」

[生まれてくる赤ちゃんのために風しん抗体検査を受けましょう](#)
(岡山県健康推進課)

生まれてくる赤ちゃんのために
風しん抗体検査を受けましょう

岡山県(岡山市・倉敷市以外)・
岡山市・倉敷市では、風しん抗体検査を
無料
で実施しています。

妊娠初期の妊婦さんが風しんにかかると、生まれてくる赤ちゃんに感染することがあります。風しんは予防接種で予防できます。

無料抗体検査対象者で、既往歴又は予防接種歴が明らかでない方は、予防接種が必要かどうかを調べるため、抗体検査を受けましょう。
特に閉経37年度～平成元年度生まれの男性と閉経54年度～平成元年度生まれの女性は、十分な免疫がないことが多いとされています。

無料抗体検査対象者
岡山県内に住み、次のいずれかに該当する方
(1) 妊娠を希望する女性とその同居者
(2) 風しんの抗体価が低い妊婦の同居者
※1世帯あたり、合計で風しん抗体検査を受けることが1回です。事前に風しんの予防接種歴がある方、検査で確定診断を受けた風しんの感染歴がある方はいずれかに該当する方は含まれません。

検査するメリット
① 検査がわかる公的書類(健康保険証、産科検診証、産科検診受取書)
② 「風しん抗体価が低い妊婦の同居者」は、妊婦の風しん抗体価が確認できる書類(抗体検査結果通知、妊婦検診結果記録簿など)
※知事である倉敷市長官邸については、詳しくは本県庁舎のHPをご覧ください。
岡山県・倉敷市以外にお住まいの方 | 風しん抗体検査結果 | 無料 | 検査
岡山市 | 風しん抗体検査 | 無料 | 検査
岡山市 | 風しん抗体検査 | 無料 | 検査
倉敷市 | 風しん抗体検査 | 無料 | 検査
倉敷市 | 風しん抗体検査 | 無料 | 検査

※検査の結果、抗体価が低いと判明された場合は、予防接種を受けることを検討してください。予防接種を受けて抗体価が上がる場合があります。(例年～ムベール) - 1回接種。詳しくは受けたい自治体の保健所にお問い合わせください。
※風しんに対する免疫を持っていない人の割合が全国的に高くなると、地域での風しん感染に繋がります。

風しん対策
岡山県保健福祉部健康推進課 086-226-7331



©岡山県「ももっち・うらっち」

風しんの予防について 岡山県で風しん患者が発生しています！

●風しんはワクチンで予防できます！

妊婦を守る観点から、妊娠を希望する女性や同居する家族で、過去に予防接種を受けていない方や風しんのり患が明らかでない方などは、予防接種についてご検討ください。

また、30代～50代の男性で、風しんのり患や予防接種が明らかでない方も、合わせてご検討ください。

なお、妊娠中の女性は予防接種を受けることができないため、特に流行地域においては、抗体を持たない、または抗体価の低い妊婦は、可能な限り人混みを避け、不要不急の外出を控えましょう。

風しん抗体検査(無料)を受けましょう！

先天性風しん症候群の予防を目的として、岡山県では風しんの無料抗体検査を実施しています。

県内の抗体検査実施医療機関において、窓口で費用を負担することなく検査を受けることができます。

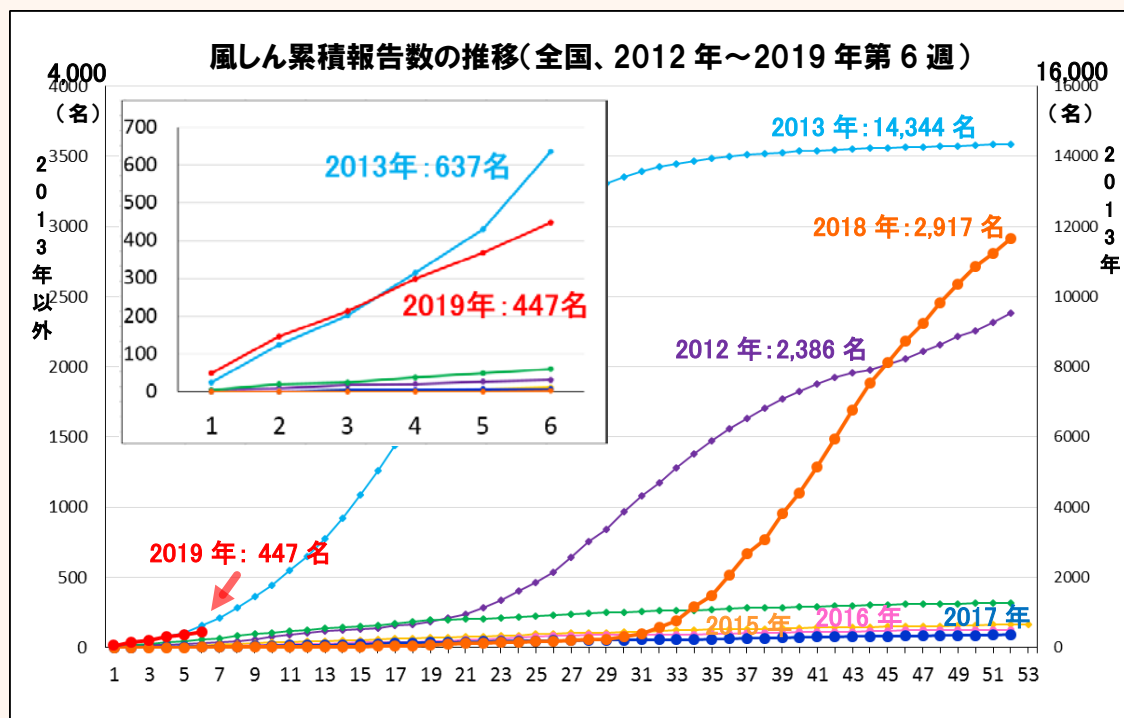
検査の詳細は、下記のホームページ

[風しんの無料抗体検査が受けられます\(岡山県健康推進課\)](#)

[風しんの無料抗体検査\(岡山市\)](#)

[風しん抗体検査について\(倉敷市\)](#)

をご覧ください。



詳細は・・・

[風疹急増に関する緊急情報\(2019年\)\(国立感染症研究所\)](#)

[風疹とは\(国立感染症研究所\)](#)

[風しんについて\(厚生労働省\)](#)

注意喚起情報～関西地方で麻疹感染拡大中!

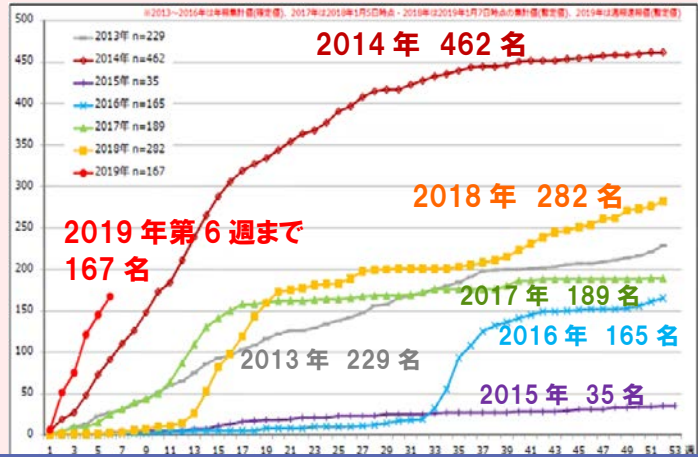
●関西地方で麻疹（はしか）の感染患者が確認されています！

2019年1月初旬に三重県で麻疹の集団感染が報告されました（2月18日時点の感染者数49名）。その後、大阪府でも感染者数が81名（2月17日まで）と、その急増が確認されるなど、関西地方および患者の移動等によるさらなる広範な地域での感染拡大が懸念されています。

- 「麻疹（はしか）」とは麻疹ウイルスによる急性熱性発疹性疾患です。感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染など様々で、その感染力は非常に強く、麻疹の免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人が感染するとされています（インフルエンザでは1～2人）。

免疫を持っていない人が感染する

とほぼ100%発症します。手洗い、マスクのみで予防はできません。



全国の麻疹累積報告数の推移（2013年～2019年第6週）

●症状

感染すると10～12日後に発熱や咳、鼻水といった風邪のような症状が現れます。

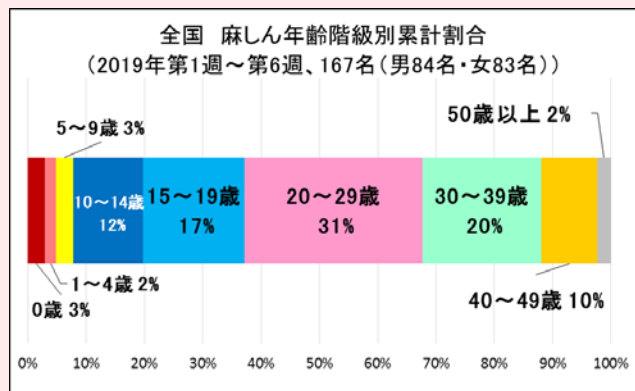
38℃前後の発熱が2～4日続いた後、高熱（多くは39.5℃以上）と発疹が出現します。通常は7～10日後には回復しますが、肺炎、中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人の割合で脳炎を発症し、極めて重篤となることがあります（麻疹の二大死因は肺炎と脳炎です）。また、妊婦が感染すると、流産や早産を引き起こす可能性があります。

●麻疹はワクチンで予防できます！

麻疹の予防にはワクチンの接種が重要で、2回接種することでほぼ確実な免疫を得ることができるといわれています（1990年4月以前に生まれた方は、未接種か、1回接種の場合が多く、1回接種の場合でも免疫が低下している可能性があります）。

麻疹感染が重症化しやすい小学校

入学前までのお子さんのMRワクチンの接種状況について、今一度ご確認ください（この年代では定期接種2回となっていますので、母子健康手帳を確認の上、接種が行われていない場合は、MRワクチンを接種してください）。



[麻疹について（厚生労働省）](#)

[麻疹とは（国立感染症研究所）](#)

[三重県のホームページ「麻疹（はしか）について」](#)

[大阪府のホームページ「麻疹（はしか）について」](#)

医療関係者の方はこちらもご参照ください。

⇒ [「医療機関での麻疹対応ガイドライン（第七版）」（国立感染症研究所）](#)

インフルエンザ週報 2019年 第7週 (2月11日～2月17日)

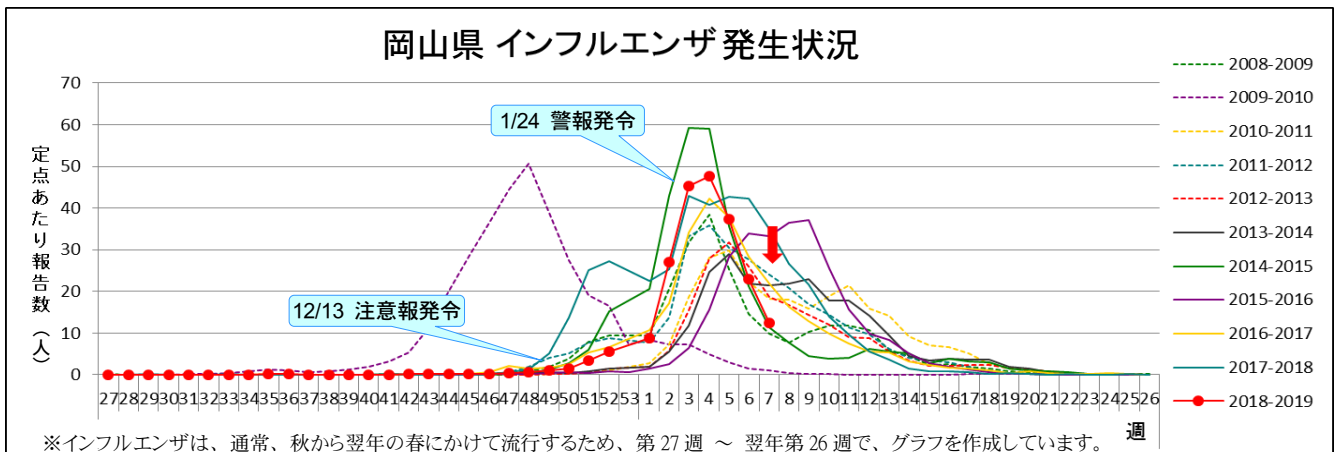
岡山県は『インフルエンザ警報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で1,046名（定点あたり12.45人）の報告がありました（84定点医療機関報告）。
- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が17施設でありました。
- インフルエンザによる入院患者13名の報告がありました。

【第8週 速報】

- インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が24施設でありました（2月18日～21日）。



インフルエンザは、県全体で1,046名（定点あたり23.02 → 12.45人）の報告があり、第5週（1/28～2/3）以降患者数は減少していますが、依然として多くの患者が報告されています。岡山県は、『インフルエンザ警報』を発令中であり、広く注意を呼びかけています。地域別では、真庭地域（22.67人）、倉敷市（19.38人）、備中地域（11.50人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。すべての地域で報告数の減少が見られましたが、県内全域での流行は継続しています。学校等の臨時休業は、前週（82施設）から大きく減少し、第7週は17施設から報告がありました。しかしながら、第8週（2/18～）速報でも、すでに臨時休業をしている施設がありますので、ひきつづき幼稚園・小学校・中学校などを中心とした集団の中での感染に注意してください。

今年は、2種類のA型が同時流行していることから、インフルエンザに複数回患する可能性もあります。

今後とも県内の発生状況に注意するとともに、『帰宅後や食事前の手洗いを徹底する』、『人混みを避ける』、『マスクを着用する』、『十分な睡眠をとる』など、体調管理にも留意し、感染予防に努めましょう。また、症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど、咳エチケットを心がけましょう。

◆インフルエンザの流行が継続しています。

いっそうの感染予防に努めましょう。

【 予 防 】

- ・ 帰宅後は手洗いをしましょう。アルコールを含んだ消毒剤で手を消毒するのも効果的です。
- ・ 人混みに入る場合は、マスクを着用しましょう。特に高齢者や慢性疾患を持っている人などは、人混みを避けましょう。
- ・ 十分な睡眠をとり、バランスの良い食事を心がけて、抵抗力をつけましょう。
- ・ 室内では加湿器を使うなど、適度な湿度（50～60％）を保ちましょう。

【 かかったかな? という時には 】

- ・ 早めに医療機関を受診しましょう（受診時はマスクを着用してください）。
- ・ 人混みや繁華街への外出を控え、無理をして学校や職場等へ行かないようにしましょう。
- ・ 周りの人にうつさないように、『咳エチケット』を心がけましょう。
- ・ 水分を十分にとり、安静にして休養をとりましょう。

1. 地域別発生状況
前週からの推移（単位：人）

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1,046	▲	備 中	患者数	138	▲
	定点あたり	12.45			定点あたり	11.50	
岡山市	患者数	234	▼	備 北	患者数	34	▼
	定点あたり	10.64			定点あたり	5.67	
倉敷市	患者数	310	▲	真 庭	患者数	68	▲
	定点あたり	19.38			定点あたり	22.67	
備 前	患者数	158	▼	美 作	患者数	104	▲
	定点あたり	10.53			定点あたり	10.40	

【記号の説明】 前週からの推移 ▲：大幅な増加 ▲：増加 →：ほぼ増減なし ▼：大幅な減少 ↓：減少
 大幅：前週比 100%以上の増減 増加・減少：前週比 10～100%未満の増減

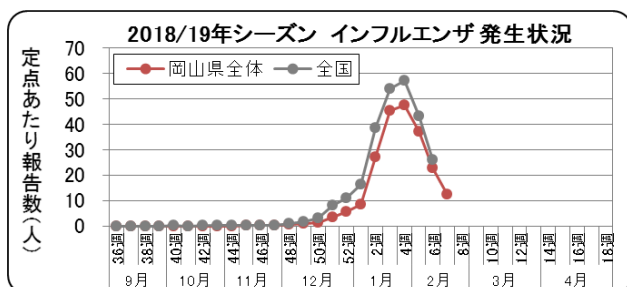
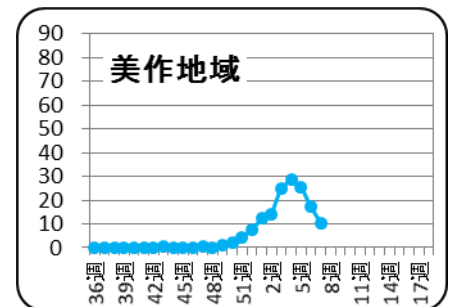
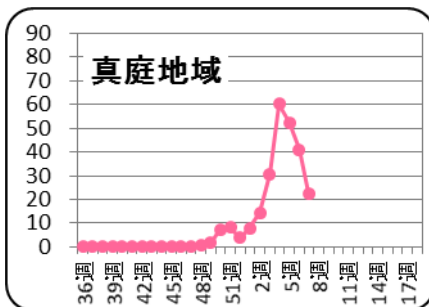
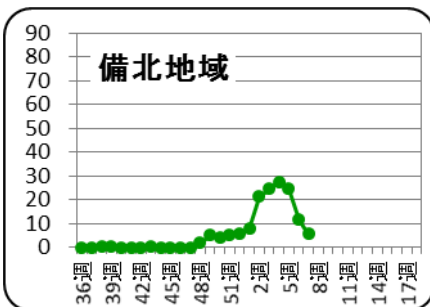
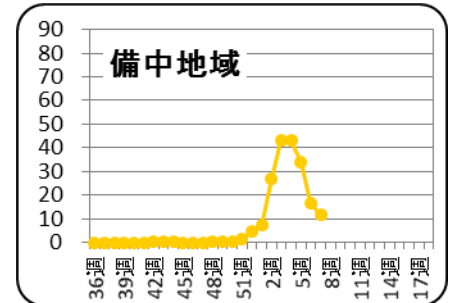
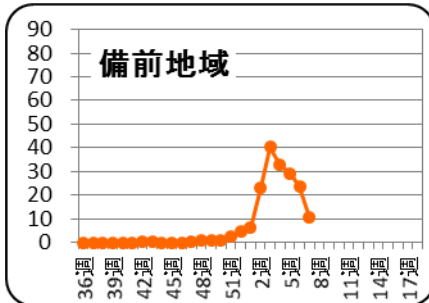
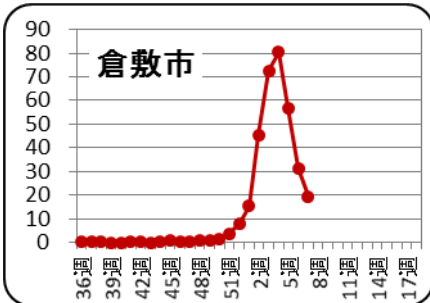
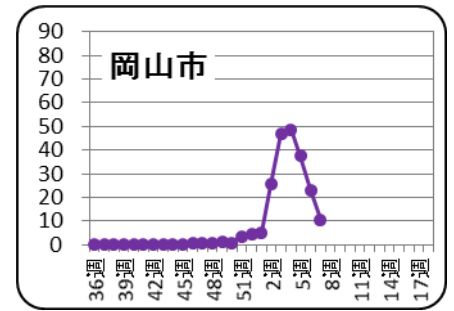
インフルエンザ感染症マップ



<インフルエンザ発生レベル 基準>

レベル3		レベル2
開始基準値	終息基準値	基準値
30	10	10 以上 30 未満

レベル1	報告なし
基準値	基準値
0 < 10 未満	0

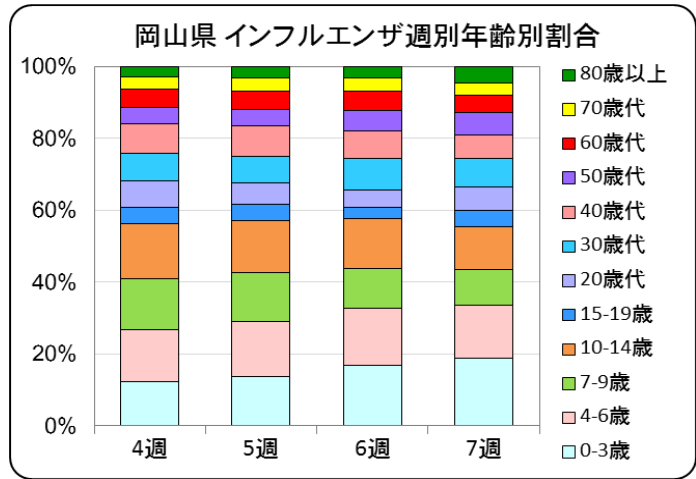
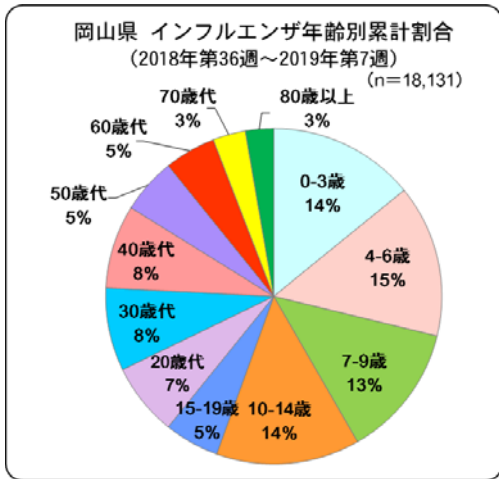


全国集計 2019 年第 6 週（2 / 4～2 / 10）速報値によると、全国の定点あたり報告数は 26.28 人となり、前週（43.24 人）から減少しました。都道府県別では、埼玉県（38.56 人）、沖縄県（35.50 人）、新潟県（35.44 人）の順で定点あたり報告数が多くなっています。全都道府県で前週の報告数より減少がみられました。

[インフルエンザの発生状況について（厚生労働省）](#)

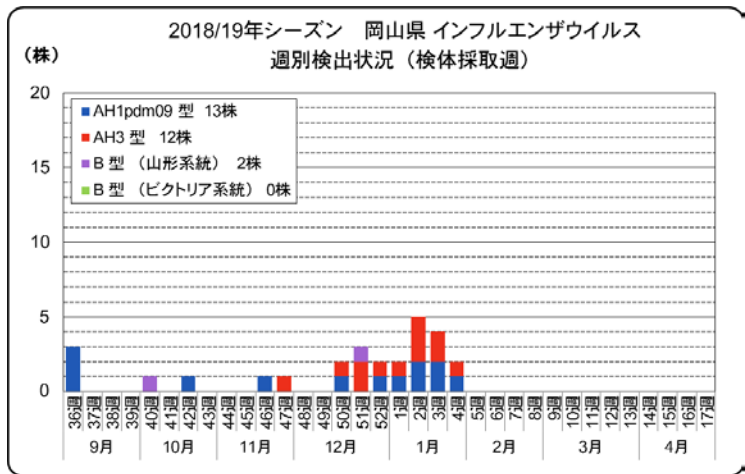
2. 年齢別発生状況

0歳から14歳までで約半数（56%）を占めていますが、広い年齢層で報告されています。



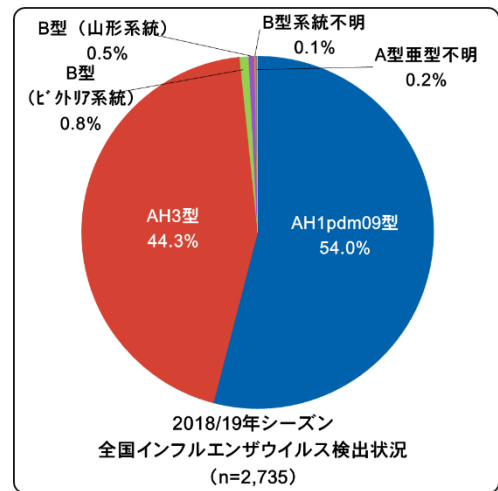
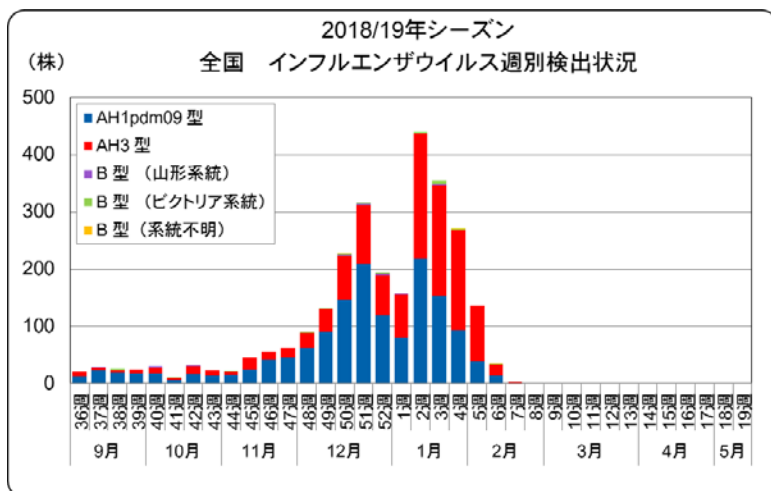
3. インフルエンザウイルス検出状況

2019年第7週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスはありませんでした。今シーズンこれまでに環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは27株で、その内訳は、AH1pdm09型13株、AH3型12株、B型（山形系統）2株となっています。



今シーズン、全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH1pdm09型が1,478株、AH3型が1,212株、B型が40株（山形系統14株・ビクトリア系統23株・系統不明3株）、A型亜型不明5株となっています（2月20日現在）。

[インフルエンザウイルス分離・検出速報（国立感染症研究所）](#)

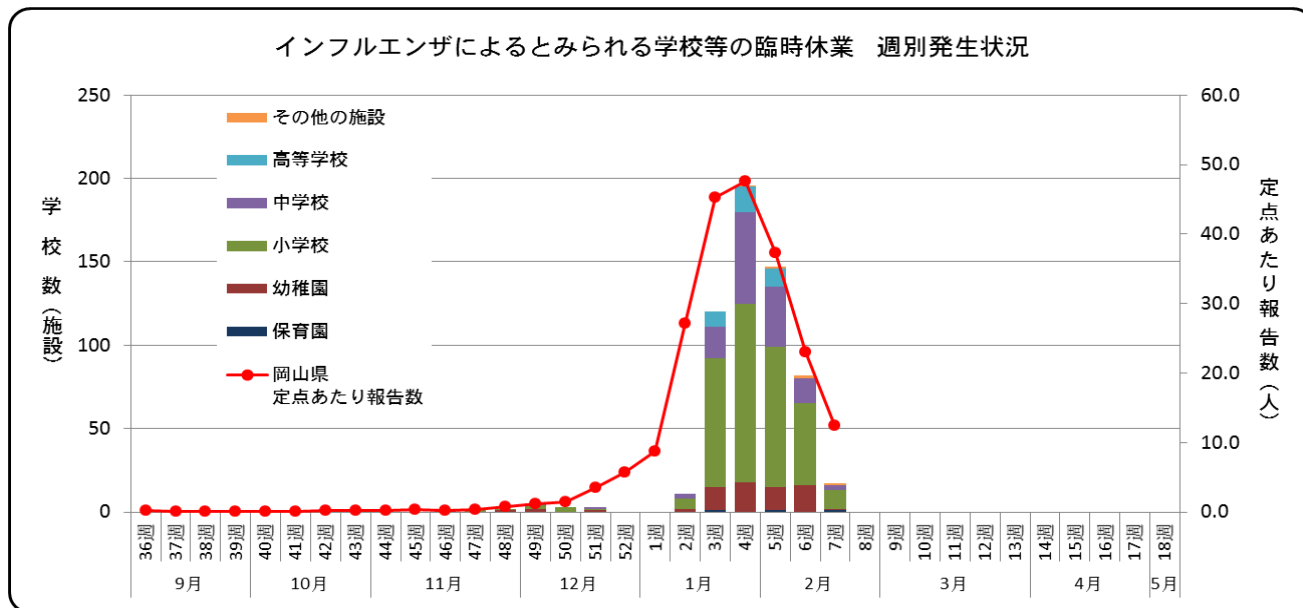


4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数

インフルエンザによるとみられる学校等の臨時休業が、17施設でありました。

【第7週 臨時休業施設数】

▽岡山市 8 ▽倉敷市 5 ▽笠岡市 1 ▽備前市 1 ▽赤磐市 1
▽美作市 1



1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています。

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	235	8601	193	6959	17	591	0	9	5	134	12	448	H30.9.26
岡山市	113	3802	93	3025	8	243	—	—	1	20	7	223	H30.9.26
倉敷市	53	1907	40	1643	5	129	0	1	1	21	4	107	H30.11.12
備前地域	43	710	42	606	2	56	0	1	2	21	0	34	H31.1.10
備中地域	9	1083	9	896	1	91	0	1	0	34	1	56	H30.12.13
備北地域	0	126	0	83	0	11	0	1	0	8	0	2	H31.1.15
真庭地域	0	221	0	158	0	12	0	2	0	6	0	4	H31.1.17
美作地域	17	752	9	548	1	49	0	3	1	24	0	22	H30.12.6

2) 臨時休業施設数の内訳

第7週：17施設

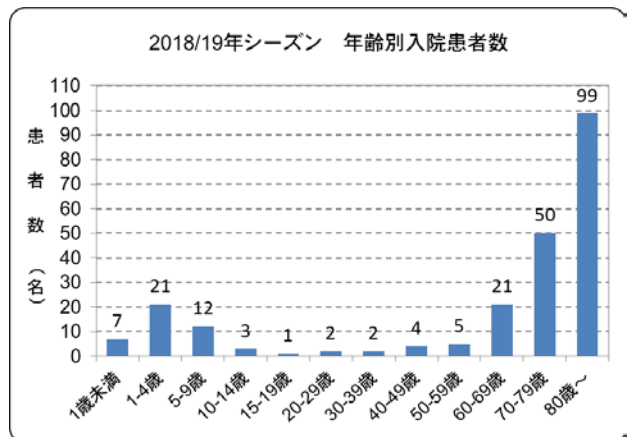
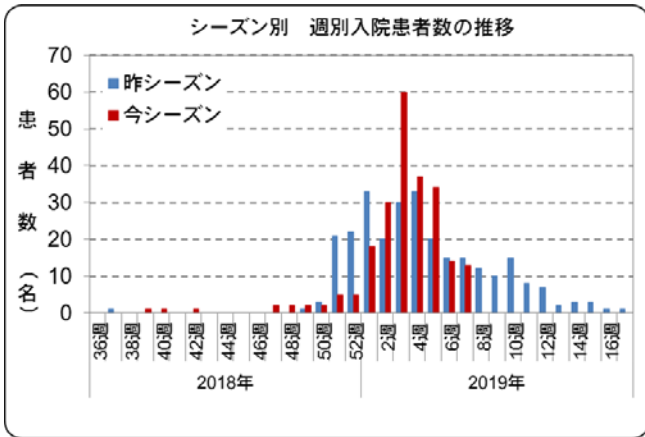
累計：591施設

	保育園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	1	3	1	70	11	344	3	134	0	35	1	5

5. インフルエンザによる入院患者報告数（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者は、13 名（5-9 歳 1 名、10-14 歳 1 名、60-69 歳 1 名、70-79 歳 6 名、80 歳以上 4 名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので、注意が必要です。幼児ではまれに急性脳症を起こすことがあります。水分をとった後すぐ吐いてしまう、元気がない、意識がはっきりせずうとうとしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。



【第7週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数			1	1						1	6	4	13
ICU入室*													
人工呼吸器の利用*													
頭部CT検査(予定含)*										1	1		2
頭部MRI検査(予定含)*													
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず			1	1							5	4	11

【2018年9月3日以降に入院した患者の累計数】

* 重複あり

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計
入院患者数	7	21	12	3	1	2	2	4	5	21	50	99	227
ICU入室*		1						1		1	3	1	7
人工呼吸器の利用*		2						1		1	1	6	11
頭部CT検査(予定含)*		2	1			1				4	4	5	17
頭部MRI検査(予定含)*		3	3	1	1			1			4	1	14
脳波検査(予定含)*													
いずれにも該当せず	7	16	8	2		1	2	2	5	16	42	88	189

* 重複あり

[インフルエンザ Q&A \(厚生労働省\)](#)

[平成30年度 今冬のインフルエンザ総合対策について \(厚生労働省\)](#)

[インフルエンザ 関連情報 2018/2019 シーズン インフルエンザワクチン株 \(国立感染症研究所\)](#)

感染性胃腸炎週報 2019年 第7週 (2月11日～2月17日)

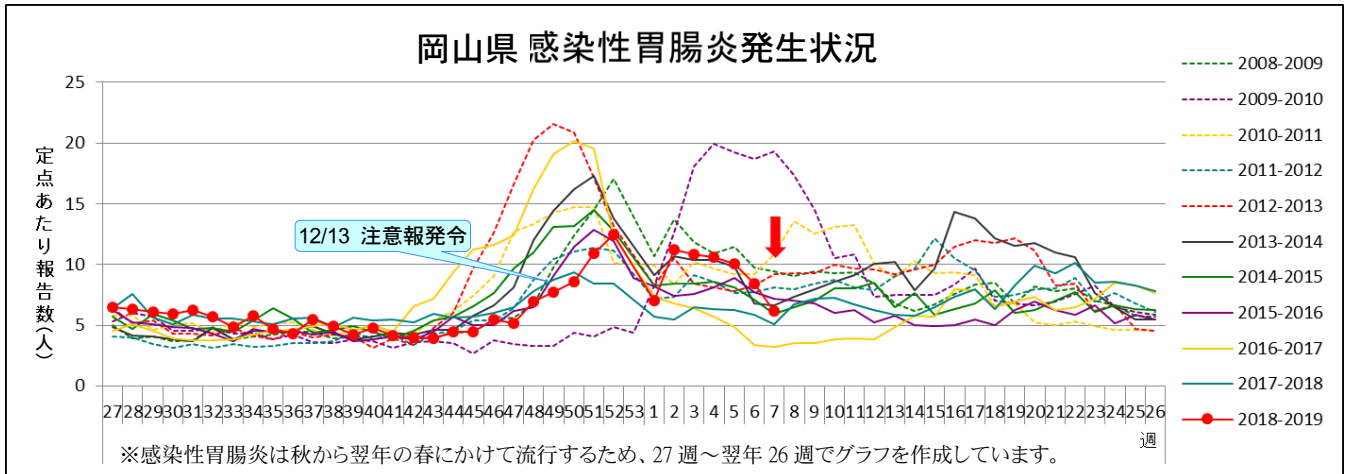
岡山県は『食中毒（ノロウイルス）注意報』発令中です

➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で335名（定点あたり6.20人）の報告がありました（54 定点医療機関報告）。

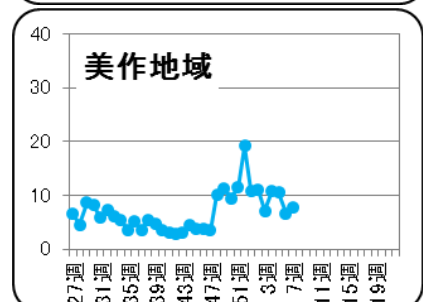
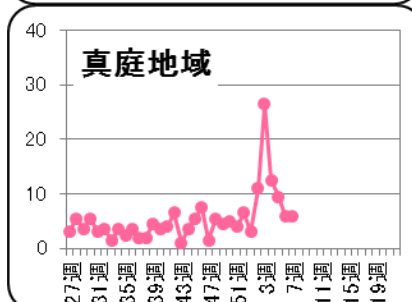
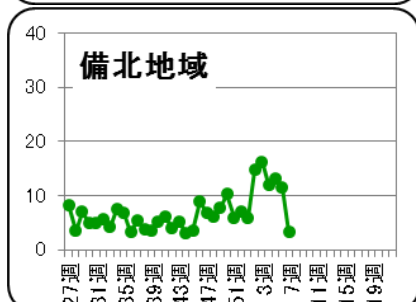
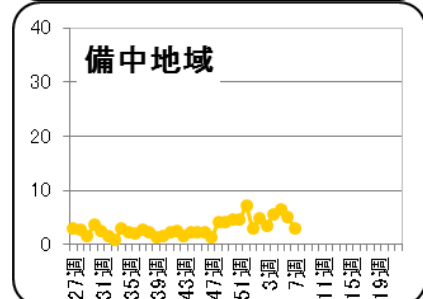
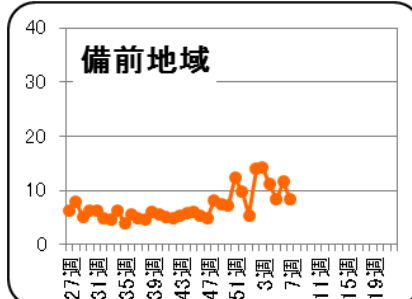
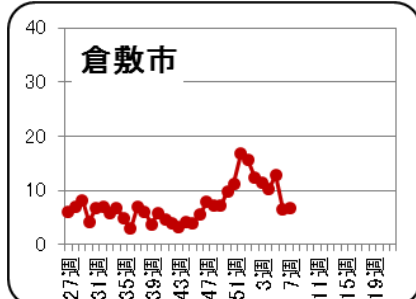
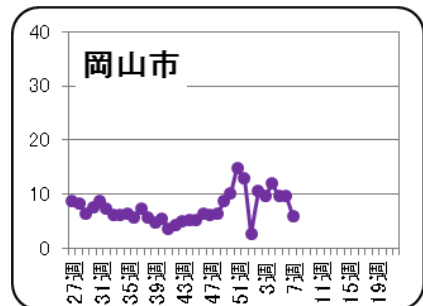
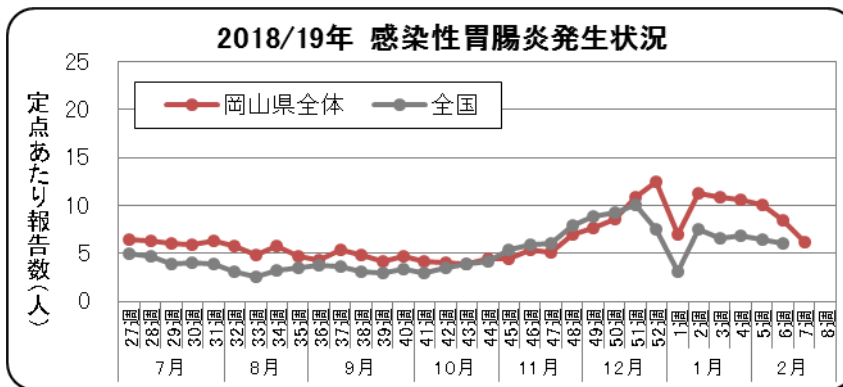
【第8週 速報】

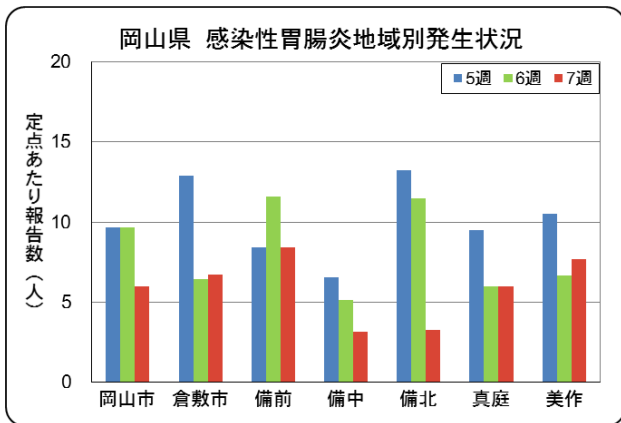
○感染性胃腸炎によるとみられる学校等の臨時休業が1施設でありました（2月21日）。



感染性胃腸炎は、県全体で335名（定点あたり8.44 → 6.20人）の報告があり、前週から減少しました。冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。特に乳幼児や高齢者は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

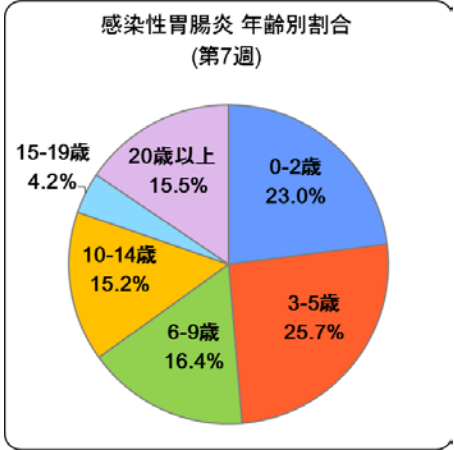
◆地域別・年齢別発生状況





レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



2019年第7週報告の年齢別割合は、15歳未満の小児が80%を占めています。

◆◆ 感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

<予 防 方 法>

1. **最も大切なことは、手を洗うことです。**
 排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
2. **処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。**
 おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。
3. **おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上の熱水処理または次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)**での消毒が有効です。**
 おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、熱水処理または次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。
4. **食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を85～90℃で90秒間以上)**
 二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。また、アルコールの効果は低いとされています。

[○ノロウイルスに関するQ&A \(厚生労働省\)](#)

[○ノロウイルス感染症とその対応・予防 \(家庭等一般の方々へ\) \(国立感染症研究所\)](#)

保健所別報告患者数 2019年7週(定点把握)

(2019/02/11~2019/02/17)

2019年2月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1046	12.45	234	10.64	310	19.38	158	10.53	138	11.50	34	5.67	68	22.67	104	10.40
RSウイルス感染症	8	0.15	3	0.21	2	0.18	-	-	1	0.14	1	0.25	-	-	1	0.17
咽頭結膜熱	17	0.31	5	0.36	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	109	2.02	24	1.71	35	3.18	18	1.80	8	1.14	21	5.25	1	0.50	2	0.33
感染性胃腸炎	335	6.20	84	6.00	74	6.73	84	8.40	22	3.14	13	3.25	12	6.00	46	7.67
水痘	14	0.26	7	0.50	5	0.45	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
手足口病	3	0.06	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	12	0.22	6	0.43	2	0.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
突発性発疹	14	0.26	7	0.50	1	0.09	1	0.10	3	0.43	1	0.25	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	1	0.25	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2019年7週(発生レベル設定疾患)

(2019/02/11~2019/02/17)

2019年2月21日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1046	12.45	234	10.64	310	19.38	158	10.53	138	11.50	34	5.67	68	22.67	104	10.40
咽頭結膜熱	17	0.31	5	0.36	1	0.09	-	-	-	-	1	0.25	-	-	10	1.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	109	2.02	24	1.71	35	3.18	18	1.80	8	1.14	21	5.25	1	0.50	2	0.33
感染性胃腸炎	335	6.20	84	6.00	74	6.73	84	8.40	22	3.14	13	3.25	12	6.00	46	7.67
水痘	14	0.26	7	0.50	5	0.45	1	0.10	-	-	1	0.25	-	-	-	-
手足口病	3	0.06	-	-	3	0.27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	12	0.22	6	0.43	2	0.18	1	0.10	2	0.29	-	-	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	1	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	1	0.20	1	0.25	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-

薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2019年 第7週 2019/02/11~2019/02/17)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~	
インフルエンザ	1046	3	19	62	65	48	58	56	41	42	35	27	124	46	70	81	70	63	53	34	49

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~	
RSウイルス感染症	8	4	1	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
咽頭結膜熱	17	-	1	5	-	2	1	2	4	-	-	1	-	1	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	109	-	-	3	6	15	18	6	13	7	7	4	14	2	14
感染性胃腸炎	335	3	17	31	26	31	29	26	16	14	14	11	51	14	52
水痘	14	-	-	1	-	-	-	-	6	1	2	-	4	-	-
手足口病	3	-	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-
伝染性紅斑	12	-	-	1	1	1	4	3	1	-	-	1	-	-	-
突発性発疹	14	-	4	9	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

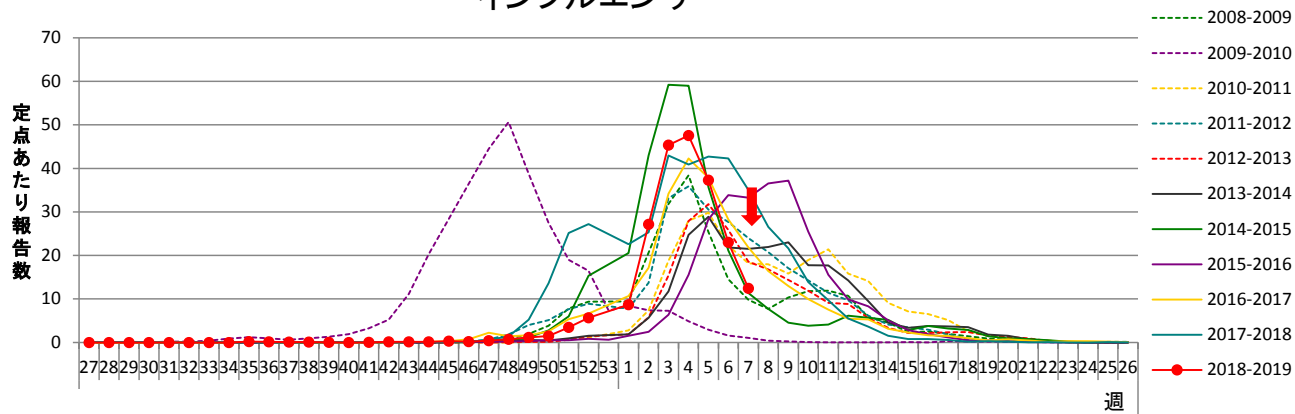
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

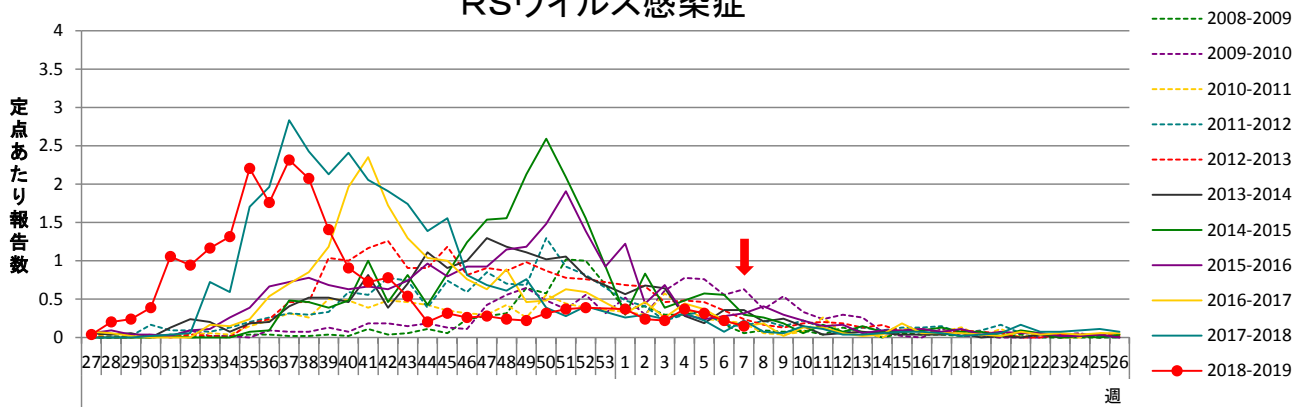
2019年 7週

分類	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	疾病名	2019		2018	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	9	45	335	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	16	腸管出血性大腸菌感染症	-	1	70	
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	1	5	
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサナル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	-	-	2	
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	-	2	
	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	-	5	
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1	マラリア	-	-	-	
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	-	3	83	
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	1	15	ウイルス性肝炎	-	1	5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	1	6	26
		急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	1	1	3	急性脳炎	1	4	6	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	14	後天性免疫不全症候群	-	1	18	
ジアルジア症		-	-	1	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	2	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	-	1	
侵襲性肺炎球菌感染症		1	8	45	水痘(入院例に限る。)	-	-	3	先天性風しん症候群	-	-	-	
梅毒		2	16	160	播種性クリプトコックス症	-	-	2	破傷風	-	-	2	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	-	百日咳	-	23	187	
風しん		-	3	29	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	

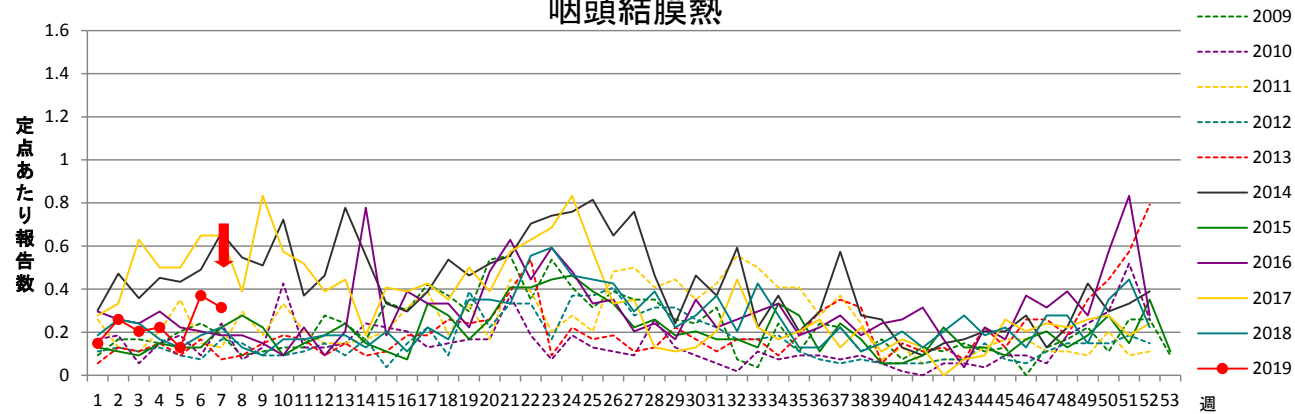
インフルエンザ



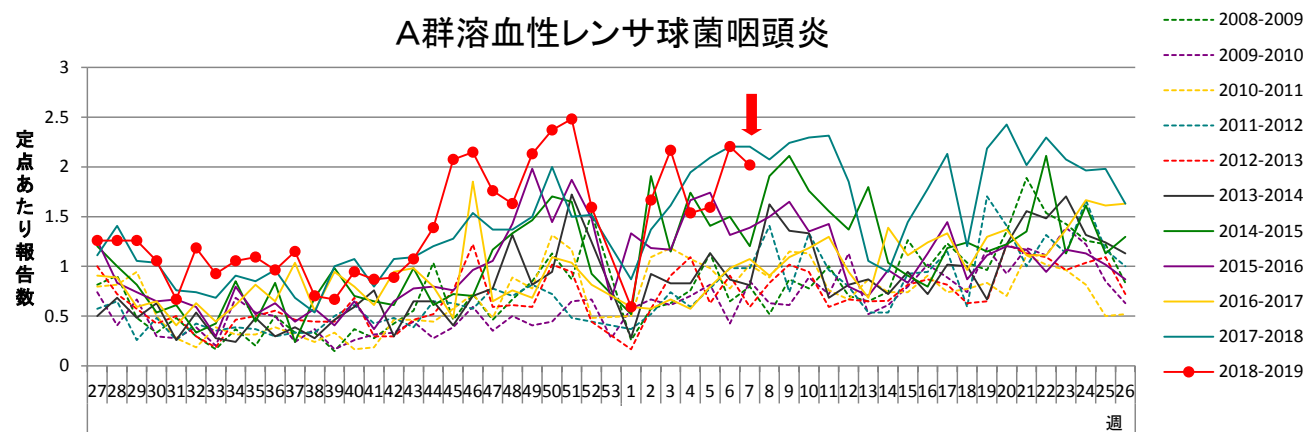
RSウイルス感染症



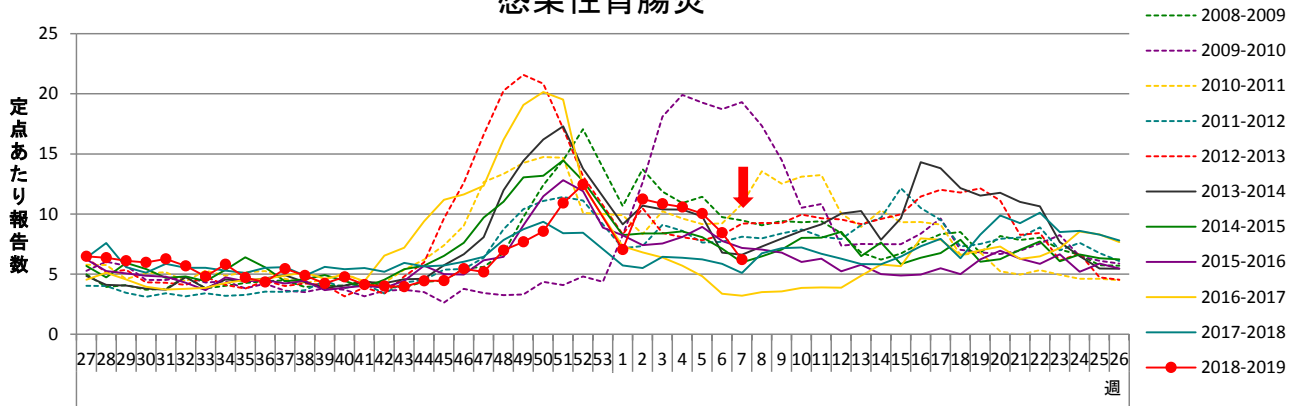
咽頭結膜熱



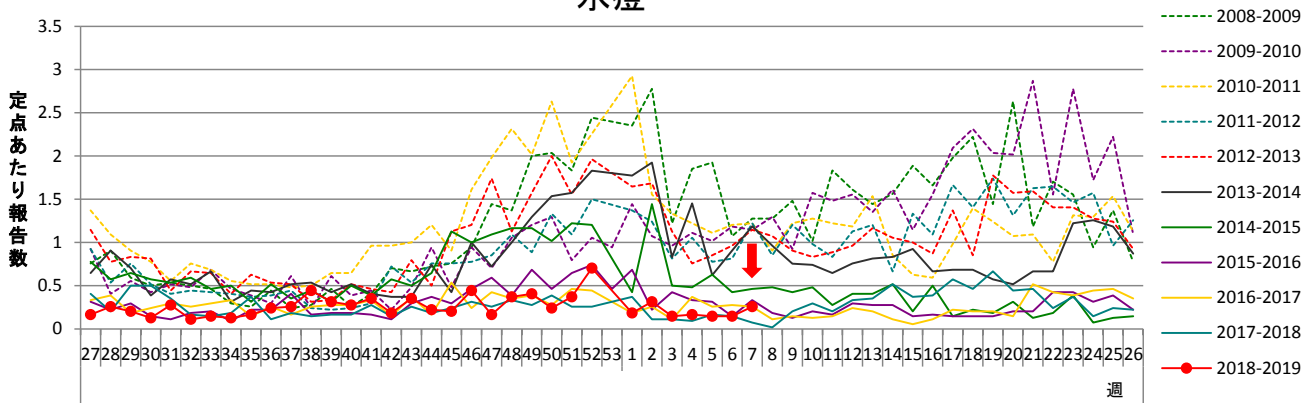
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



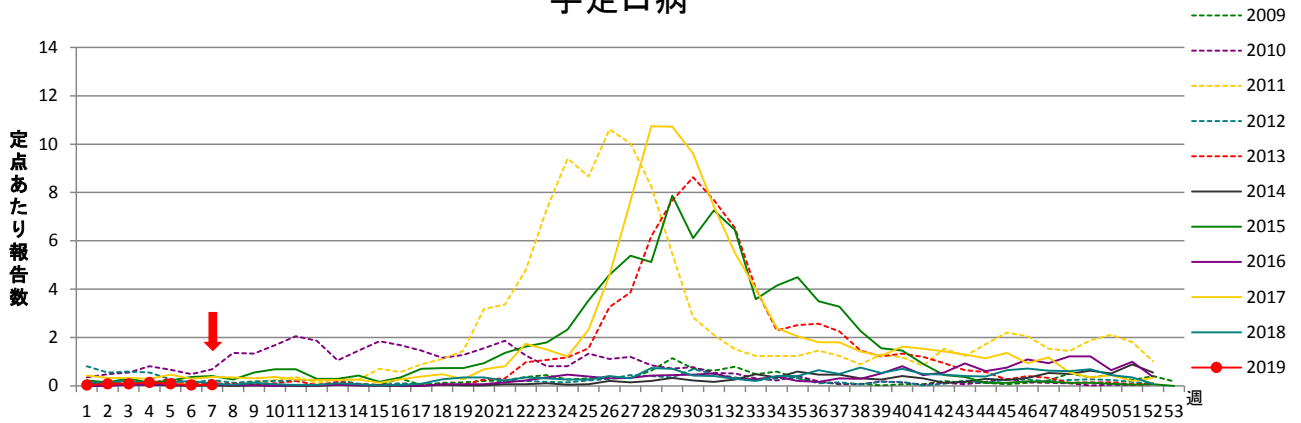
感染性胃腸炎



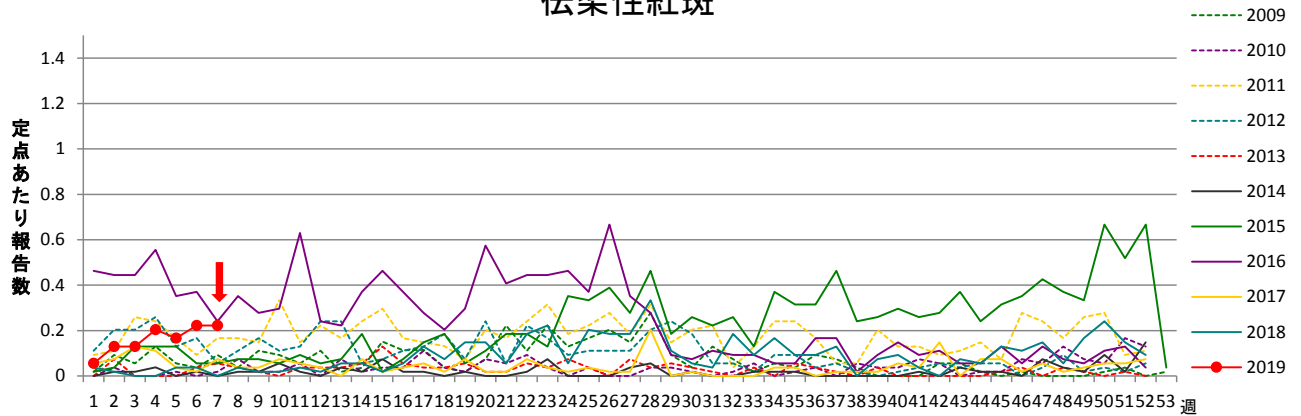
水痘



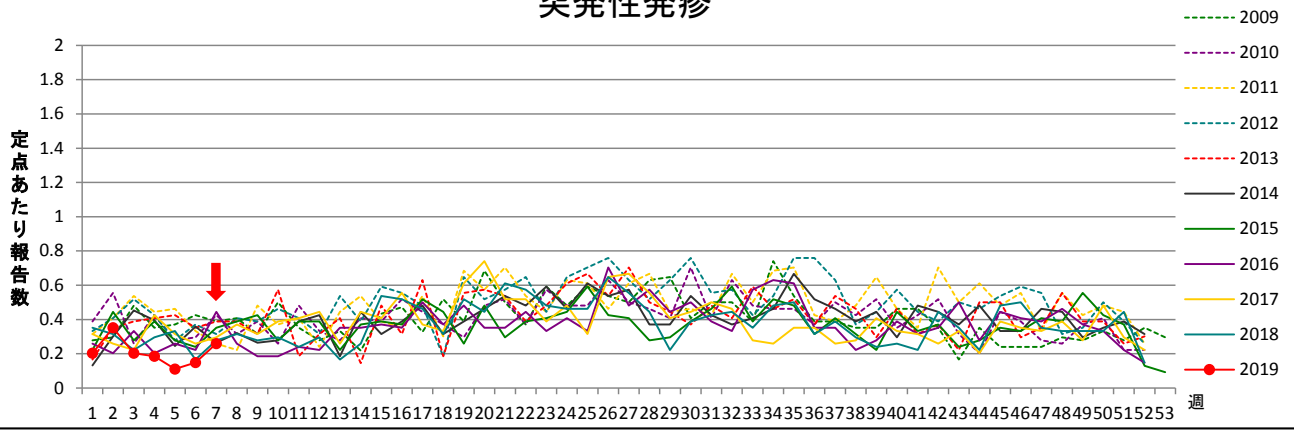
手足口病



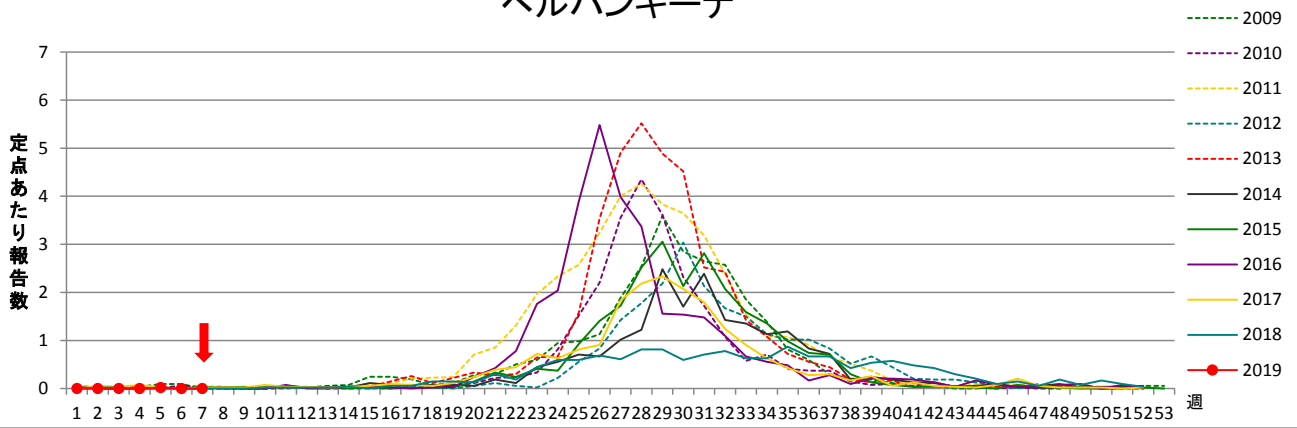
伝染性紅斑



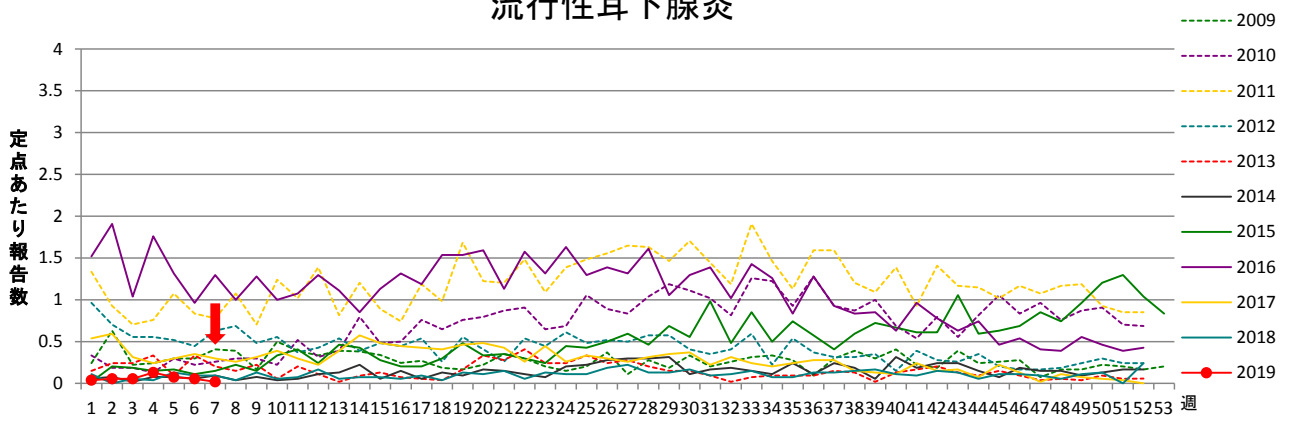
突発性発疹



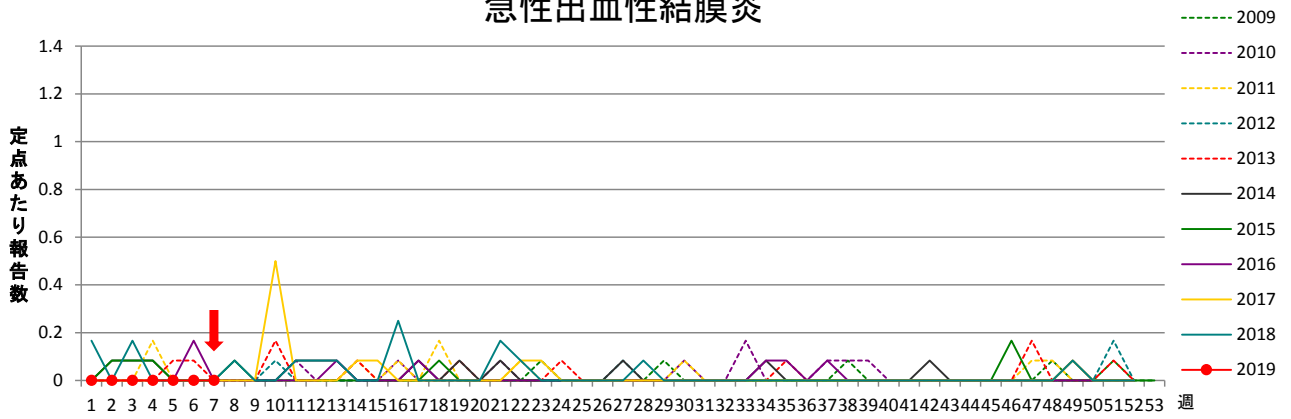
ヘルパンギーナ



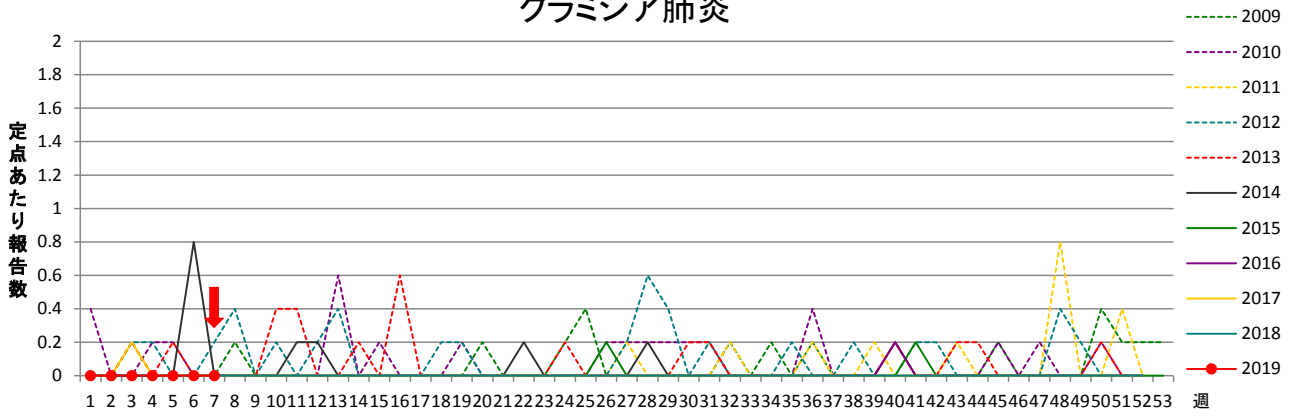
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

